

取り組むべき8項目	部会	令和4年・5年度の目標 (令和2・3年度の取組から)	部会での令和4・5年度取組	達成	評価・課題
ア 地域医療・介護資源の把握	ICT部会 資源研修部会	- 市内の医療機関情報の把握(更新) - 市民及び支援者に対して資源調査の活用 の推進 - 三鷹かよおとの周知・活用の推進	- 医療機関、歯科、薬局等の資源調査の実施 (三鷹かよおとの情報更新) 「連携窓口みたか」担当者による新規医療機関の聞き取り調査の実施 - 医療ケア可能な施設の調査結果の活用 (連携窓口と地域包括支援センター) - 市内の研修把握できるイベントカレンダーの周知及び活用の推進 - 三鷹かよおとの機能を把握してもらうため、MCS「みたかい」とコラボした研修を企画	○	(評価) 市内の医療機関情報の把握や地域資源情報データベースの運用開始など取り組むべき目標は達成した。 (課題) ・医療機関調査について3年毎の更新が妥当なのか、方法も含めて検討 ・他部署や他機関での資源情報について役割を明確化 ・医師会、歯科医師会、薬剤師会の会員以外の新規医療機関の情報収集方法について検討 ・医療ケア施設の調査の更新について検討 ↓ ・他の医療情報との役割分担を明確にし、在宅専門の資源情報に集約する。 ・医師会、歯科医師会、薬剤師会に所属していない医療機関についての情報集約について検討する。 ・三鷹かよおとを市民と医療介護に係る関係者が活用できるものにしていく。
イ 在宅医療と療対・介護の連携の課題抽出	医療病院連携部会	- 共通課題の明確化 - 在宅側と病院側の連携の強化 ①病院と在宅の連携の困難さへの視点の違い ②病院も巻き込んだ市民啓発の必要性 ③多職種・地域と密に交流を深める ④困難事例の情報共有についての整理	- 医療介護連携推進部会と病院連携部会の合同検討部会にて病院との連携についての課題抽出 ・連携シートの作成の検討 ・多職種連携研修会の検討 ・各病院の地域連携について発表と意見交換 ・連携窓口みたかの役割強化についての検討⇒ハブ的役割を担う ・「応援します！自分で決める自分のくらしと医療～今日から考えませんか？」の作成と活用 ・連携窓口みたかの相談からの課題についての検討⇒内容と対応について共有化を図る	△	(評価) 課題別の5つの部会で、各々課題抽出と対応策については検討を重ね、共通課題も明確化した。しかし、在宅側と病院側の連携強化については、多くの課題が残った。 (課題) ・連携シートの作成の検討 ・多職種研修会の検討 ・各病院の地域連携に関する機能と役割の違いを把握 ・連携窓口みたかの役割の強化(ハブ的役割)
ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	医療病院連携部会	後方支援事業について - 事業利用者の検証 - 関係機関へ事業の周知の必要性 身寄りのいない人への支援体制を検討 - ACPや医療介護連携についての啓発チラシ作成 - 救急医療情報キットとあんしんキーホルダーの一元化の検討 - お薬手帳連携シート(関係機関カード)についての検討 - 保険証カバーにもなる医療機関同士の連携シート入りの手帳の必要性の検討	- 対象やルールの見直しの検討 - 事例に合わせて検討 ・がんの末期で介護保険申請中のケースの受け入れについて ・緊急避難の目的での受け入れについて ・後方支援病床利用事業の周知活動(看護職交流会、事業者連絡会、新規医療機関) ・市内病院の実情を把握 ・「応援します！自分で決める自分のくらしと医療～今日から考えませんか？」の周知と活用 ・後方支援病床利用事業協力病院における、救急医療情報キットとあんしんキーホルダーの普及啓発 ・救急医療情報キットとあんしんキーホルダーの申請書及び受付窓口を一体化 ・お薬手帳連携シート(関係機関カード)とお薬手帳カバーの配布	○	(評価) 後方支援病床利用事業については、在宅療養を支える事業としては仕組として安定している。 (課題) ・入退院時の支援者間での情報共有・連携強化の必要性 ・共通課題をテーマに多職種で取組む必要性 ・支援者間の情報共有、人財交流の必要性 ・多職種と事例を通した検討会の必要性

取り組むべき8項目	部会	令和4年・5年度の目標 (令和2・3年度の取組から)	部会での令和4・5年度取組	達成	評価・課題
工 医療・介護関係者の情報共有	病院連携・ICT部会 連携合同部会	・ICTに対する苦手意識克服ために研修及びサポート体制 ・ICTのコストに見合う業務効率の良さの周知 ・ICTのセキュリティーが課題 ・介護事業所向け、医師会向けそれぞれにICT活用に関するアプローチ ・災害時の情報共有の方法について検討 ・ICT活用への意識向上 ・三鷹かよおとの周知・活用の推進	・三鷹かよおとの総合活用 ・「連絡帳みたかい(MCS)」との連携 ・ICTアンケート調査結果の分析及び課題抽出 ・災害時の情報共有の方法についての検討 ・ICT部会×MCS運用検討委員会共催による災害時ワークショップ ・イベントカレンダー機能の追加➡周知・活用方法の検討	△	(評価) ICTを活用した医療・介護関係者の情報共有の推進については、ICT部会を立ち上げ、ICTアンケート調査の実施や三鷹かよおとの機能を更新・活用検討するなど課題抽出と改善策の検討を重ねてきた。しかし、三鷹かよおとについての周知・活用は十分ではない。 (課題) ・ICTを活用した多職種連携の必要性 ・支援者間の連携シートの作成 ・三鷹かよおとの総合活用
オ 在宅医療・介護関係者の連携強化	病院連携・医療介護連携合同部会	・多職種連携の強化(在宅支援チームとして薬剤師の役割を把握) ・連携窓口みたかの役割の強化について	・薬剤師向け研修にて支援者間(地域包括支援センター、ケアマネジャー、相談窓口)との連携強化 (連携窓口みたかから関係部署、支援者へ橋渡し 入退院、転院に関する相談支援 事業者連絡協議会にて連携窓口みたかの周知)	○	(評価) 各地域包括支援センターと連携窓口みたかによる相談支援の体制は、互いに市民や支援者の相談や事業を通して、連携を強めているため、取組目標は達成した。 (課題) ・どこにもつながっていない市民への支援 ・入退院時支援にて多職種で取り組む
カ 医療・介護関係者の研修	病院連携・医療介護連携合同部会	・多職種による研修会を通して、交流を深めるとともに各関係機関の役割を把握する。 ・市内の研修把握できるイベントカレンダーの周知・活用の推進 ・薬剤師との研修実施 ・病院向け研修の開催 ・病院と在宅の連携の困難さへの視点の違いを把握する	・多職種連携WGによる研修(令和4年度で終了) ・多職種交流会の必要性の検討 ・地域包括支援センター保健師看護師会と協働で多職種研修実施 ・在宅医療介護連携に関する薬剤師研修の実施(薬剤師会主催) ・医療介護連携推進部会と病院連携部会の合同検討部会の実施 ・後方支援病床利用協力病院の地域連携の取組発表 ・ケア専門職交流会にて、エンディングノートの書き方セミナー開催	○	(評価) ・「顔の見える関係づくり」を目的とした多職種交流は、多職種交流会により達成した。令和5年度は多職種交流のみに留まらず、多職種で取り組むべきテーマ(災害やACP)でグループワークを用いた研修会を関係機関との共催により開催し、多職種連携の強化につなげた。 (課題) ・既存の会議体及び他の事業との連携を図るとともに役割分担し、多職種で研修会を企画・運営する必要がある。
キ 地域住民への普及啓発	市民啓発部会	・今まで作成してきた市民啓発用品の活用 ・人生の最終段階における医療・ケアについての意思決定支援に関する市民啓発イベントの開催	・「わたしの人生ノート～これまでとこれからの歩み～」の発行(令和4年・5年度版) ・絆ノートの作成(Webダウンロード版) ・エンディングノートの普及・啓発 ・エンディングノート書き方セミナーの開催 ・病院にチラシの設置依頼及びACPに関する病院の取組ヒヤリング ・市民イベントにて、もしばなゲーム、パネル展示等ACPの普及啓発 ・ACPをテーマとした映像作成と上映会の開催 ・ACPについての市民イベント開催(福祉Laboどんぐり山との連携)	○	(評価) 市民への普及啓発の取組を通して、コロナ禍を超えて時代の変化、終活に関する市民ニーズに合わせ、市民へ意思決定支援、ACPの普及啓発をしていくことが明確化した。 (課題) ・市民・支援者向けにACPの正しい知識の普及啓発 ・高齢者を取り囲むあらゆる世代向けに啓発 ・病院や医師会も巻き込んだ多職種によりACPの取組
ク 在宅医療・介護関係市町村の連携	連携窓口	・近隣市連携相談窓口との連携を図り、他市の在宅医療・介護連携推進事業の取組を把握する。	・近隣市連携相談支援窓口担当者と情報交換会の開催(オンライン) ・リハビリテーション実施機関名簿のWEB化 ・東京都による研修に参加	○	(評価) ・近隣市連携相談窓口担当者とはMCSを通して情報交換を行い、コロナ後、4年ぶりに対面での連絡会を実施した。 (課題) ・近隣市の本事業の取組(連携シートの活用の検討も含め)についての情報収集及び連携を図る。